

東日本コンクリート (仙台市青葉区)

工事成績優秀企業 インタビュ

東日本コンクリート(仙台市青葉区、山縣修代表取締役社長)は本年度、東北地方整備局の工事成績優秀企業に認定された。復興関連事業に伴うプレストレスト・コンクリート工事(橋梁上部工)部門で、認定は2年連続となる。下程康樹技術本部長は「明確な品質目標を掲げて取り組んだ結果、この5〜6年で技術力がじわじわと向上している」という。認定につながる同社の取り組みを聞いた。

■2年連続の認定です。率直な感想は

素直にうれしい。評価された分、スタッフを褒めてやりたい。下部工事が押した場合でも工期内に納めることが当たり前のPC業界において、昨年度表彰された企業と今回

は受注につながる。そういう意識のもとで事業の推進を図ることが基本理念にある。という思いもある。

■復興関連工事での認定。震災以前と比べての変化はありますか

震災以降で特別な変化というものは無い。ただ近年は、品質と同時に地元に対するアピール力が大切になっている。以前は80点になかなか届かなかったが、ここ数年で平均点が上がりつつある。

■東日本コンクリートの技術力・強み

例えば、早朝に測量した桁は気温の上昇で先端が垂れ、設計との微妙な誤差が生まれ、ラン一丸でさまざまなアプローチを研究してきた。その積み重ねが2年連続につながっている。

品質目標掲げ 技術向上

優秀企業に認定された会社は、皆、同じ入札に参加している。

■品質目標は

弊社では、全社員が共通の

支承がかみ合わない。こうした技術は現場で磨くしか無いが、弊社には先人たちの経験は待たない。本年度に

■今後の戦略は

時間外労働と休日出勤の削減は待たない。本年度に



下程 康樹氏

1961年7月21日生まれ、広島県出身、武蔵工業大学卒業、2019年度技術本部長就任

験と経験に基づくデータがある。また、技術者の半分以上は20代〜40代の若手が占める。工事は今後、補修が増えてくる。NEXCO東日本発注の床版取替工事などに加え、これまで蓄積してきた実績で、PCにこだわらずできることに挑戦していきたい。

【認定工事】

- ▽気仙沼地区PC床版工事
- ▽前原橋上部工工事▽吹切橋上部工工事▽升形IC橋他上部工工事